



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサブリ第25回 : 大衆文化としての初詣 : 神社からアニメ聖地を考える
Author(s)	山村, 高淑
Description	埼玉新聞2012年12月31日版、特集「サイタマニア」、p.2
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2012-12-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51119
Type	article
File Information	20121231Saitamania subcul suppl No.25.pdf



山村高淑の

サブカル サブリ

アニメや漫画の舞台地が多い
サブカル王国・埼玉。その魅力
を「アニメツーリズム」の専門家、
山村高淑氏が紹介する。



アニメファンにとって初詣といえ
ば、埼玉です。冬コミに参加し、寝不
足のまま鷲宮神社で初詣という、あ
る種の苦行を伴う定番の巡礼路は言
うに及ばず、秩父神社でじんたんと
ゆきあつのあのシーン『あの花』第
4話です。ねを回想しつつ、めんまの
願いに思いを馳せるもよし。縁結び
なら、川越のミカゲ社(富士見櫓跡)
で願をかけるもよし。『神様はじめま
した』。探し物がある方は、出雲祝
神社(入間市)で手を合わせるのもよ
し。『ホッタラケの島』…と埼玉はア
ニメファンにとって霊験あらたか
な神社が各地にあります。お正月は
こうした神社を七福神巡りのよう
にまわるもの良いかもしれません。

初詣と絵馬とその大衆化の歴史

実は歴史を紐解くと、現在のよう
に有名な神社に初詣客が集中する
ようになったのは近代に入ってから
のこと。交通網(特に鉄道網)とマス
コミの発達に伴い盛んになっていっ
た、比較的新しい形の年中行事なの
です。古くは大晦日に産土神や氏神
の社に集まり、元旦まで籠り明かす
のが普通でした。これがのちに大晦
日は家で過ごし、元旦に神社を参詣
する形式が一般化。江戸時代には、
その年の恵方(年神が宿る方向)に
ある神社に初詣に行く「恵方詣」が
流行。こうして現在の初詣に繋がっ
ていきます。つまり現在の初詣とは、

大衆文化としての初詣

神社からアニメ聖地を考える

民俗信仰に由来しつつ大衆観光の
要素を多分に含む行事なのです。

絵馬も同様に江戸期以降、本来
の奉納の意味が多様化していきま
す。もともと絵馬の由来は、神の乗
り物として生きた馬「神馬」を捧げ
ることでした。これがのちに生馬の
代わりに、馬形(土や木でつくった馬
の模型)や板立絵馬(板で形づくっ
た馬)を献上するようになります。
この板立絵馬を簡略化したものが小
絵馬(掛け絵馬)です。この小絵馬
奉納の習俗が一般大衆に広まったの
が江戸中〜後期。大衆化に伴い、奉
納の意味や絵馬の絵柄は多様化し
ていきました。和算家が奉納した
「算額(数学の答えを書いたもの)」な
どはその好例です。こうして今や、絵
馬に書く願文はそれこそ多種多様
絵柄も何でもありになっています。

このように、特に江戸期以降、神
社参詣は大衆化してきました。そし
て、アニメ聖地としての神社にファ
ンが詣でるのも、絵馬掛け所に「痛
絵馬」を奉納するのも、この流れに
位置づけて見てみると、何ら特殊な
現象ではないことがわかるのです。

「アジール」としての「アニメ聖地」

ここで重要なのは、日本の神様は
こうした多様な参詣者、手を合わせ
る人すべてを受け入れて下さる懐の
深い存在である点です。これはまさ
しく、神社という場所が「アジール」

(統治権力の及ばない、世俗から縁
の切れた聖域、自由で平和な避難地)
であり続けていることの証左です。

そもそも、歴史的に神社仏閣など
宗教的な聖地の多くはアジールのな
り格を持っていました。あの名作ア
ニメ『電脳コイル』でサッチー(行政
が導入した違法電脳体駆除ソフト)
が神社に入れないという設定があり
ますが、これなどはまさに神社がア
ジールであることの現代的表現であ
り、視聴者はそれを違和感なく理解
できるわけです。更には宗教的な聖
地だけではなく、統治権力からの自
治を獲得した、町人による商業都市
などもアジール性を持ちました。

実はここにアニメ聖地を読み解く
ひとつの鍵があります。全国でファ
ンに愛されているアニメ聖地の多くが、
共通しているアジール性を持つ
のです。すなわち、神社があり、商
工会や商店会が地域側の主体になっ
ており、行政が表に出ていません。

つまり、そもそも大衆文化とは、
アジール性を持つ場所がないと育た
ないのです。例えば土師祭やコミケ
などは現代のアジールの典型例です。
逆に公権力や大資本などが、大衆
の自治や自由を統制しようとした
途端、こうした大衆文化は力を失っ
ていくものなのです。

「聖地巡礼」と「お接待」

さて、日本における文化としての

聖地巡礼を考えると、もうひとつ
忘れてはならない重要な点がありま
す。それは「お接待」の文化です。代
表例は、四国八十八カ所を巡礼する
お遍路さんに対する、地元の方々か
らの食べ物や飲み物、宿などの無償
の提供。お接待をする理由は、功德
を積むためであったり、一種の代参
であつたりと、様々な言われがあり
ますが、こうした仕組みがあること
で、貧しい巡礼者も目的を達成する
ことができたと言います。

もちろんこれを単純に現在のアニ
メ聖地巡礼に当てはめることはでき
ません。しかし旅人の旅先に対する
純粹な想い、そして地域の人々が旅
人のことを思いやり、旅人が地域の
人々に感謝する気持ち、これらは共
通です。そして、ファンから愛され
るアニメ聖地は必ずこうした旅人と
地域の人々の気持ちが結ばれる場所
になっています。

このところ、中央省庁や地方自治
体でサブカルやポップカルチャーの
集客効果・経済効果が今までになく
注目されるようになっていきます。何
かそこには焦りすら感じる今日のこ
頃です。しかし、こうした効果はあ
くまで結果であり、目的ではなかつ
たはず。初詣は、旅や巡礼、接待の
持つ本質的な意味を、今一度冷静に
考えてみる良い機会なのかもしれま
せん。